

手術制限に関するアンケート調査結果（2020年5月18-5月24日）

日本麻酔科学会COVID-19 対策特別委員会は2020年5月18-5月24日に全国の認定病院に対してアンケートを行いました。

質問内容

” 本調査は毎週の日本全国の手術件数と手術室制限状況（COVID-19患者専用部屋やICU化された手術室の数）を調査することにより、麻酔科医・手術室のワークロード現状を調査することにあります。

都道府県名だけの入力ですので、施設の特定がされることはありません。ワークロードの減少、増加を把握することで、COVID-19による手術施行への影響や回復程度を類推することが可能になります。

さらには、麻酔科医の配置などに対する要望にも対応していきたいと思いますので、週に一度の定期的入力をお願いいたします。”

結果

1415の認定病院のうち509施設から回答がありました。施設合計の手術室数は3728室、そのうち76室(2.0%)がCOVID-19専用の手術室として準備されていました。この割合は前回(2.1%)とほぼ同じレベルでした。今回は何らかの理由で制限されている手術室数が208室で全体の5.6%でこれは前回の7.4%から少し減少していました。全体として調査期間に26490件の手術が行われ、この数字は昨年度の平均週手術件数と比較すると76.3%で前回の80.0%より減少しており、調査期間中の最低値でした(GWを除く)。

特定警戒地域における手術件数は変動も少なく、東京都では前年比60%程度で前回と変化ありませんでしたが、大阪府では70%程度でまだ減少傾向でした。特定警戒地域では、まだどの地域でも手術件数は回復傾向とは言えないようです。地域別で見ると関東甲信越・東京支部は全国平均よりも明らかに低く未だに改善していません。北海道・東北支部も低下傾向です。

(図)

本アンケートは全例調査ではありませんので、回答された施設の現状であり、必ずしも現状の全てを表しているものではありません。日本麻酔科学会COVID-19対策特別委員会は本調査を毎週継続して行い、報告していきます。

COVID-19 対策特別委員会

図

